



# 故郷の自然を伝承する

6月号では森の名手・名人である笹島義廣さん取材しました。

森の名手・名人とは、公益社団法人国土緑化推進機構が毎年、森に関わる樵（きこり）、炭焼き、木地師、大工、椎茸生産等の生業において、優れた技を極め、他の模範となっている達人のことです。

問1. 森の名手・名人になるきっかけは何だったのですか？

「殿様街道探訪ウォーク」を始める前の話になります。

浅野さんという方が以前澄川に住んでいて、「この山道（現在の殿様街道探訪ウォークの登山コース）にはどんな歴史があるのか知りたい」という話があり、案内したところ、「これはイベントになる！」とのお話をいただき、「殿様街道探訪ウォーク」を始めることとなりました。2回目の開催の時、当時の渡島総合振興局長が参加してくれまして、局長は登山が好きだったので、色んな木や草花に興味があり、私にたくさん質問してくれました。

後日、局長から西部森林室役場づてに「何か山や木の資格を持っていますか」と聞かれ、「何も持っていませんよ」と答えたところ、北海道庁まで話が進み、「森の名手・名人になりませんか」と話をいただいたのがきっかけですね。



「森の名手・名人」になったのは平成19年なのですが、その後、東京の高校生から「山や木、草花の事を教えてほしい」と連絡があり、東京から福島町に来て、1泊2日くらいなことを教えました。後日、また連絡があり、今度はわら細工を教えましたが、その高校生は今では九州で農大の教授をしているらしく、今でも年賀状のやり取りをする仲です。